
早期臨床実習を終えて

歯学科1年 濱 航 太

約7ヶ月前、これから始まる大学生活に胸を膨らませながら入学式を迎えました。それからあっという間に時は過ぎ、一年生の後半が始まりました。一年生の間は五十嵐キャンパスで歯学の基礎となる数学や物理といった科目や、様々な外国語そして新潟大学ならではの講義をメインに学習します。そして、一年次では唯一である歯科について学ぶ科目が早期臨床実習です。

早期臨床実習では歯周病科や矯正歯科などの診療科の先生からどのようなことをしているのかを聞き、実際に治療しているところを見学しました。また、六年年生の先輩に患者として歯を診ていただく患者役実習があります。この早期臨床実習で様々な発見や学びがありましたが、そのなかでもある二つのことが特に私の成長につながりました。

一つ目は治療見学によるモチベーションの向上です。早期臨床実習を受けるまでは治療についての具体的な仕事内容は知りませんでしたが、この講義を受けて将来私が歯科医師としてももちろんすべてではありませんが、どう治療していくのかイメージを持つことができました。そして、このイメージが今後の学びのモチベーションになりました。

二つ目は患者さんの視点に立つことがとても大事であることです。患者役実習で治療を受けましたが、どのような治療をしているのかは患者視点からだとわかりませんし、痛みや滲みは逆に患者にしかわかりません。だからこそ歯科医師の視点だけでなく患者さんの視点に立つことも非常に大切であると身をもって学びました。

早期臨床実習を通して、自分は医療に関わる仕事に就くという意識が高まりましたが、この実習のために時間を割いてくださった先生方、治療見学にご協力いただいた患者さんそして治療してく

ださった先輩方には感謝の言葉しかありません。新しく出会った仲間達と共に、この実習で学んだことをいかして学業に励んでいきたいと思います。

歯学科3年 吉 田 百 花

私たち3年生は早期臨床実習Ⅱで初めて病院に出ました。この授業は、基礎系科目の先生方による講義と、病院見学、実習班ごとのグループ学習の3部構成で行われました。

各基礎系科目の講義では、顎顔面・口腔機能や生命科学現象などについて学習する普通の講義とは異なり、歯科疾患や治療法、治療薬など臨床との結びつきについて解説していただきました。さらに国家試験でどのような問題として出るか、日常生活においてどのように活用されるかについてなど歯科分野を超えて私たちの生活に深い関わりがあることを理解することができました。

病院見学では、患者さんの実際の診察や治療の場面の見学だけでなく、印象材やワイヤー曲げの実習も行いました。私は口腔外科を見学した際に基礎系科目との強い関わりについて理解することができました。症例とその治療方法や使用した薬剤、副作用、多職種連携について細かく具体的に例を挙げて説明してくださったので、歯科薬理学や口腔組織発生学、解剖学など様々な分野の基礎系科目の知識が必要であることがわかりました。

グループ学習では、講義と見学を通して得た知識を自分たちなりに考え直し発表したことで理解がより深まりました。

早期臨床実習Ⅱを通して学んだことは、基礎系科目と臨床との結びつきの強さです。2年生までは基礎系学科科目の学習が主であり、試験をこなすことで精一杯だったので臨床との結びつきについて考える機会があまりありませんでした。実際

に見学をしたことで臨床の現場ではそれぞれの科目で学んだ知識を治療に結びつけるだけでなく、各科目同士の知識の結びつきまでも理解して初めて使える知識になるということを深く理解することができました。今後の授業では実習が増えていくため、基礎系科目の知識を思い出しながら実習に励みます。

口腔生命福祉学科1年 高橋 美 優

私は今まで、学科名である「口腔生命福祉学科」になぜ「生命」が入っているのかを理解していませんでした。しかし早期臨床実習において様々な診療科の先生方から話を聞き、理解することができました。私たちが生きていくためには、栄養を摂取しなければなりません。食べ物を口に入れ、筋肉を使って顎を動かし、舌と歯を使って噛み砕き、筋肉を使って飲み込みます。この咀嚼・嚥下機能が衰えたのなら、食材をペースト状にしたものを食べれば良いのではという発想をしていましたが、一般的に食材は手を加えない方が栄養価が高いということを教わりました。口腔機能は栄養価の高い状態で食べ物を摂取するためにとっても重要な役割を担っているのです。したがって口腔機能は生命と密接に関わっています。

早期臨床実習の中には車椅子実習もありました。車椅子実習を通し、歩行が困難な患者さんが診療所に来た場合の診療は想像がつかしました。しかし目が見えない患者さんや耳が聞こえない患者さんに対してはどのように診療するのか想像がつかせません。車椅子実習は私の視野を広げてくれたと思います。医療は全ての人に受ける権利があり、全ての人に均質に医療を提供する上で、医療と福祉は切っても切れない関係にあると思います。そしてこの学科が「歯科衛生学科」ではなく「口腔生命福祉学科」であることの利点を最大限に活かし学ぶ必要があると思います。

早期臨床実習を終え、「口腔生命福祉学科」に込められた意味を認識することができました。早期臨床実習を終えた今の気持ちを忘れずに3年間

勉学に励み、口腔生命福祉学科が理想とする人材となって卒業できるよう精進してまいります。先生方、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

口腔生命福祉学科2年 阿部 愛 未

早期臨床実習ⅡBでは実際に保健・医療・福祉の現場へ訪れたり教科書や講義だけでは得られない多くの学びを得ることができました。

前半の授業では主に施設見学をさせていただきました。特に印象に残っているのは1.6歳児検診・3歳児検診と児童相談所です。

1.6歳児検診・3歳児検診での歯科衛生士の業務は診療補助だけにとどまらず、食事やおやつ摂取状況、ブラッシングの習慣など細かいところまで確認するということが分かりました。また、私がつかせていただいたお母さんは初めての育児かつ頼れる人がいない状況のため、戸惑いや不安を抱えていました。しかし、歯科衛生士の方がその心に寄り添い、専門的な知識を活かして丁寧にサポートする姿が印象に残りました。

児童相談所ではさまざまな背景を持つ子どもたちが過ごす施設の現状を知る貴重な機会を得ました。私は最初、児童相談所や保護所には暗いイメージを持っていましたが、そこにいる子どもたちがとても明るく過ごしている姿を見て、そのイメージが大きく覆されました。それは、職員の方々が子ども一人一人に真摯に向き合い、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりをしているおかげだと分かりました。歯科衛生士・社会福祉士としてどのように子どもたちを支えていけるのか考えさせられました。

後半の授業では、バイタルサイン測定や救急蘇生法、感染予防対策など今後実習を行っていく上で重要なことを学びました。

この授業を通して歯科衛生士・社会福祉士として技術や知識だけでなく、患者や利用者の方の気持ちに寄り添う大切さを学ぶことができました。今回得たことを忘れず、今後も学びを深めながら成長していきたいと思います。